

「8つの学校が消える」ってホント？ 避けて通れない公共施設の 再編・再生を考える

12月議会の一般質問で、「学校を核とした公共施設再生の現在地とこれから」を取り上げました。これは、6月に開かれた市のフォーラムで「現在の小中22校を14校に」というシミュレーションが初めて示されたことで、ご不安の声や問合せを多くいただくようになったのですが、中には不確かな情報を信じた不安や思い込みもあると感じたためでした。

誰が市長になろうとも避けては通れない「公共施設の再編・再生」について、論点を整理せぬままに賛否を争うことが得策とは思えません。

今回の質問を通じて、「**どんな課題があり、何がどこまで決まっているのか、決まっていないのか**」を明らかにしたいと考えて臨みました。

■これまでどう進めてきたのか

佐藤「学校を核とした公共施設の再生」が公表されたのはいつか。

担当部長平成27年6月の公共施設再生計画基本計画で「学校を核とした公共施設の再編・再配置」の検討を明示し、ワークショップや出張講座などで積み重ねた議論を踏まえ、令和3年3月改定の公共施設再生計画の筆頭に、学校を核とした公共施設の再生を進める旨を掲げ、公表している。

佐藤6月のシンポジウムで公開された14校案への批判ピラが広く配られ、SNSでは「水面下で全部決まっている」とか「議会がお墨付きを与えている」という書き込みもあるが、「そんな事実はありません」「少し落ち着いてください」と私は伝えている。ピラを出した団体の方ともお会いして話したが、同感する点がある一方、論点が未整理で不安を惹起している面もあると感じた。学校建替えに合わせ、周辺の公共施設との「複合化」を選択した理由と、参考になっている先進的な事例があれば伺う。

担当部長「将来世代にツケを回さず、時代の変化に対応した安全安心な施設に再生し引き継ぐこと」を大前提に、限りある財源の中でサービスの質を高めることを目指し意見交換会を重ねて来た。市のハコモノ施設の6割以上を占める学校の敷地に、学校だけでなく、公民館、図書館、高齢者支援施設などのサービスを複合化し、地域交流の核として建て替えを行うことが最善策であると

考え、具体的な検討を進めている。全国的に相当な事例があるが、立地条件が住宅地の中なので、埼玉県吉川市立南小や、立川市立第一小などに視察してきた。

■集約化≒学校統廃合とは

佐藤現22校の存続でなく、集約化≒統廃合を提案した理由を伺う。

担当部長あくまでも現時点での基準や推計に基づいたデータ分析の結果であり、その通りの規模で計画を実行するという位置づけではない。何校まで減らせばよいかという観点で学校の移転や集約を議論した結果ではなく、統合を決定したのものでもない。将来にツケを回さず地域の核として広く使っていただくために維持管理・運営を検討する際の一つの見通しを示したものだ。

佐藤集約化の課題はどう認識しているか。

担当部長工事期間中の教育環境や、通学路の変更の影響、地域に長年根づいてきた学校が無くなることに伴う地域住民の思いも当然大きいので、当事者である児童・生徒はもとより、多様な世代の様々な方々に丁寧に意見を伺って進めることが重要と考えている。

佐藤富士見町内の3校（一中、富士見小、南台小）は、集約化（統廃合）の最初のケースとしているため、異論や不安等を耳にする。課題は大変多く、関係機関で本格的な議論が不可欠。現状と、アクションプランではどう扱う予定なのか確認したい。

担当部長移転の可否や学校全体のあり方などは別に整理すべきものと考えている。アクションプランでは、地域の方たちとの意見交換や関係機関との協議へ向け、将来的な移転・集約に向けた教育環境のあり方、敷地の利活用、施設配置などの課題を段階的に整理することの

佐藤 まさたか 市政レポート

第105号
2024年1月17日発行
【発行】ちゃんと変えよう！東村山



12月議会で一般質問を行う佐藤まさたか



6月に開かれた市のフォーラムで使用されたシミュレーション資料

スケジュール感を示す予定。

佐藤)小中一貫校があたかも決まったかのような情報に市民が混乱している面がある。教育制度をどうするかという議論はこれからだということによいか？

村木教育長)私の口から一貫校にするとか義務教育学校を考えていると言ったことは一度も無いし、そういう機会も無い。

■今後どう進めていくのか

佐藤)現時点でのシミュレーションの位置づけと、40年近くを要するとしている公共施設再生計画の意義、進め方について考えを改めて伺いたい。

村木教育長)教育委員会として市長部局と一体となって検討を進めているが、両者の視点が全て一致しているわけではなく議論を重ねている。予防保全の観点から老朽化対応は急がなければならないが、同時期に全校に着手することは難しい。長期スパンで一定の優先順位をつけながら検討していく。

少子化の加速が予想される中、教育の質を重視し学校規模の適正化を図る中で、地域の実情も踏まえて取り組みたい。教育委員会の役割は学校再生だけではなく、学校を核とした地域のコミュニケーションづくりにも大きく寄与しなければならない。

渡部市長)公共施設再生の議論を10年ほど重ねてきたが、人口推計などから全ての維持は困難で、いずれ複合化せざるを得ないことも当初から申し上げて来た。

老朽化が目立ち耐久年数にも達しつつある中、議論の段階から実際に作業に入っていく過程と捉え、地域に点在する施設を本庁舎やスポセン、中央公民館、図書館等の1か所のみでの施設と切り分け、学校を中心に具体的な進め方を検討してきた。

一番問題になるのは、どこから着手するかであり、着手するならば、ある程度の将来見通しを議会からも市民からも問われると考えた。いろんな議論が出ると想定もしたが、**一度は人口推計に基づき、文科省の指針を厳守するとどんな40年後の像が出てくるのかを示さないと先に進めないというのが私の判断だった。示せば当然、うちの子どもが通っている学校が将来無くなってしまおうとか、いろんな議論を呼ぶのは予測していたが、「こういうことが考えられる」というシミュレーションであり、**



渡部市長

り、決定事項でないというのは、よくよく市民の皆さんにご理解いただく必要がある。

10年単位で今後も人口推計をするので、どこのまちがどの程度人口が増えるか減るか、数字が出る。アクションプランも10年ほどのスパンで、どの学

校からどういう形でやるのかを議論させていただく。その叩き台としての見通しを今回、ある意味炎上するのも覚悟の上で一度示させてもらったところだ。

萩山小学校は、老朽化や近隣の公共施設も勘案すると最優先に取り組むことは決定事項で、保護者や児童と議論しながら、来年度に向けた基本設計等の予算化も含めて着実に進めていきたい。

次の対象の第一中学校は、あまりにも市域の端にあるので、今後を考えると、富士見小の敷地の中に一中と富士見小を…という提案を委託業者から受けたというのが現状だ。当然、**市民の皆さん、児童・生徒と議論して、そういう方向にするのか、しないのかを決めていく。アクションプランでは原理原則をまず立てた上で、萩山小は考えをある程度盛り込むが、富士見エリアについてはまだこれからという話**になってくるものと思う。

いずれにしても公共施設の建替えは、今後30年、40年のスパンで、誰が市長になっても取り組まなければならない課題だ。人口減少と超高齢化のトレンドはすぐには変わらないので、それを踏まえて現実的に持続可能な東村山市をどう構築して、その中で公共施設のあり方、特に学校施設については、基本的には子どもたちの学びの場であるので、子どもたちが安全安心に過ごせて、再生された施設の中でより良い学びが得られるようにするという。そして地域が希薄化している中、地域の繋がり、結び目の拠点として学校施設がうまく機能するようにしていくことについても、今後も考え方として貫いていきたい。

最後に私自身の現時点での見解を。本格的な人口減少と施設の老朽化は間違いなくやってきますので、将来を見据えれば、学校を複合施設化することには前向きです。一方で集約化≒統廃合することには、まだまだ議論して合意形成に努力すべき課題があるので慎重な立場です。今後顕在化する課題もあるでしょう。大事なものは、できる限りの情報を広く共有し、自分ゴトとして受け止める人が増えること。そして、子どもや若者の考えを真剣に聴くことだと思っています。

★この一般質問の全文を録音から書き起こしてブログに掲載しました。ぜひご覧ください!!

<https://sato-masataka.net/wp/>

《その1》

《その2》



**超党派
無所属**

**ただ一人、初当選から21年目
政党や特定の団体の支援を一切受けない
完全無所属の市議会議員**

このまちには、
「まさたか」がいる。
つなぐ力。
つながって生まれる力。

12月定例議会 その他のご報告



■中学校の全員給食を2026年度から実施へ

東村山市は、自宅からの弁当かランチボックス型のスクールランチかを選ぶ変則的な中学校給食を2001年から続けてきましたが、**2026年度より全7校で小学校と同じような食缶を使い、全員に温かい給食を提供する方式に変更**する、と12月議会で市長が表明しました。



市が「親の愛情弁当が最善」という導入時の考え方を墨守する中、子どもの貧困という課題に対応できていない点を私が一般質問で指摘し、全員給食にするように初めて求めたのは2013年6月議会でした。3年後の9月議会でも重ねて取り上げ、同様の主張をする議員も増え、昨年9月議会では「東村山の中学校に温かい全員給食を求める陳情」を全会一致で採択しました。正直申し上げ、ようやく…という感じですが、教育委員会事務局は市長の指示を受けて2026年度からの確実な実施へ向けて動き出していますので、朗報と受け止めています。

但し、小学校のように学校内で調理する施設を新たに建設することは、費用面からもスケジュール面からも難しいため、具体的な提供方法は未定ですが、民間給食業者から保温性の高い食缶を使って配送してもらうことになるものと思います。全国には自校方式、ランチルームでの食事、地産地消やオーガニック食材の徹底等々、質の高い学校給食を提供している自治体がいくつもありますので、手放しには喜べませんが、積年の課題の一つがようやく解消へ向けて動き出しました。

■運動公園の屋外プールは廃止・撤去へ

同じく12月議会の市長所信表明の中で、運動公園(恩多町)内の屋外プールを今年度末で廃止・撤去する方針が示されました。開設から約50年が経過して老朽化が進み、再開するためには心臓部である濾過機の交換やプールサイドの全面改修等に1億3,300万円、30年間の運営に7億円余りを要すること、利用者がピーク時の1/10以下になっていること、酷暑やゲリラ豪雨等で利用できない日も増えていること等がその理由です。

「子どもの頃は毎日通った」「三世代で親しんだのに」等々の惜しむ声も多く伺っていますが、プール撤去後は多目的に使える広場とし、将来的には運動公園の再整備を進める、という方針



を市は昨年末に公表し、1月8日までパブリックコメントも実施されました。6年度予算審議での論点の一つになると思われます。

■国民健康保険税の引上げと産前産後期の保険税減額を賛成多数で可決 ……私は初めて反対しました

国民健康保険税条例の改正を行うための議案を審議し、15対9の賛成多数で可決しました。これにより、2024年4月からの保険税引き上げと、1月から産前産後の時期の保険税減額が行われます。産前産後期の負担軽減に異論はありませんでしたが、私は過去最大となる今回の引き上げに以下の理由で賛成することは難しいという結論に立ち、初めて反対しました。



●当市は国の求める方針通りに今回も引上げを決めたが、コロナ禍や物価高の影響による被保険者の実情を踏まえ、予定していた引上げ幅の抑制や一時見合わせに踏み切った自治体もある。庁内や運営協議会の議論が十分尽くされたとは言えない。

●国民健康保険(国保)会計の赤字を補填するための一般会計からの繰入れは、その原資に社会保険加入者が納める税金も含まれていることから不公平であり悪とされるが、本当にそれだけなのか。赤字幅の削減に努める必要はあるが、公務員や民間企業に勤める人たちも、ひとたび職を失ったり自営となれば国保への加入することを考えれば、国保はそれらの人たちの万一にも備えるセーフティーネットとなっている意味は小さくなく、一般財源から一定程度繰り入れることには妥当性があるのではないか。

■焼却炉(秋水園)の建替えが暗礁に…

市では、老朽化が進んだ秋水園(秋津町)の焼却炉を建て替えるべく、2019年に整備計画を策定して準備を重ねてきました。しかし、建築資材や人件費の高騰の影響をまともに受け、工事費が当初の約1.5倍の160億円以上となることや、国の焼却炉建設に対する補助金制度が見直されたために見込んだ金額を確保できない恐れが高まったことなどから、計画を一旦凍結することを明らかにしました。市では周辺地域や環境への配慮から焼却炉を必要最低限とする予定でしたが、国は複数の自治体による広域化を前提に大規模な炉へのシフトを加速させる構えのようです。「自区内処理の原則」を逸脱する国の政策誘導には疑問を感じますが、市独自の財源だけで建て替えることは極めて困難である以上、国の動向を踏まえた対応をせざるを得ないことは確かだと思えます。新たな方向性が示され次第、速やかにお伝えしたいと思っています。



佐藤まさたか活動報告&意見交換会 まさたかミーティングに お出かけください!

誰でも参加いただけるオープンな場です

市政、市議会の最新情報をお伝えし、率直なご意見を伺う場として21年目。私を支持するorしないに関係なく、情報源の一つとしてどうぞ気軽にご参加ください。1月28日と2月3日は「学校の集約化≒統廃合」を中心に、市政の課題あれこれについての情報交換をメインに。2月18日は目前に迫る3月定例議会で審議予定の2024年度予算を含む全ての議案や請願・陳情をお見せし、ご意見を伺うことをメインにしたいと思っています。

※公民館(①②④⑤⑥)へは直接おいでください。オンライン開催(③⑦)はZoomのアドレスをお伝えしますので、下記のアドレスへメールいただくか、SNS経由でご連絡ください。

gachapin@sato-masataka.net

■学校を核とした公共施設再生ってナニ? ほか 市政あれこれ情報提供&意見交換会

- ① 朝まさたか@中央公民館 第3集会室
1月28日(日) 10時~11時30分
- ② 午後まさたか@廻田公民館 第2集会室
1月28日(日) 13時30分~15時
- ③ 夜まさたか@オンライン ZOOM
1月28日(日) 20時~21時30分
- ④ 午後まさたか@富士見公民館 第2集会室
2月3日(日) 16時~17時30分
★富士見公民館では初めての開催です!

■どうなる? 3月の予算議会

- ⑤ 朝まさたか@廻田公民館 第1集会室
2月18日(日) 10時~11時30分
- ⑥ 午後まさたか
@中央公民館 第4集会室
2月18日(日) 16時~17時30分
- ⑦ 夜まさたか
@オンライン ZOOM
2月18日(日) 20時~21時30分

今回は2つの
テーマを中心に
合計7回
開催するよ!



市議会 これからの予定

■議会報告会

2月17日(土) 14時~16時
@市民センター&オンライン

※3か月ごとに開催している市議会としての公式行事です。
12月議会報告と委員会別のテーマで意見交換会を行います。

■3月定例議会

2月21日(水)..... 初日
2月22日(木)..... 代表質問
2月27日(火)~29日(木)..... 一般質問
3月4日(月)~8日(金)..... 常任委員会
3月12日(火)~18日(月)..... 予算特別委員会
3月26日(火)..... 最終日

※3月議会で審査希望の請願・陳情は2月7日(水)17時までにご提出ください。請願(陳情)は年齢や国籍に関係なく誰にも保障された権利であり、政策提案の仕組みです。こんなことを議会で議論してほしい、実現してほしい等、書き方を含めてどうぞお気軽にご相談ください。

..... あとがき

元日に発生した能登半島地震により、多くの尊い命が失われ、家々も街も破壊され、数え切れないほどの方々が過酷な状況に依然置かれたままです。衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げると共に、支援の手が一刻も早く届ことを祈るばかりです。温かい部屋で食卓を囲めること、風呂に入れて寝床に着けることが決して当たり前ではないことを改めて痛感する年始となりました。

当市では毎年1月10日に消防団出初式が行われており、私たち議員も出席させていただきます。今年も好天のもと開催されました。市内には7つの分団があり、団員さんたちは誰もが本業を持ちながら、火災や自然災害の際には現場に駆けつけて生命と財産を守るため活動されています。近年は団員不足が顕著となり、18歳から65歳までの市内在住か近隣市在住で在勤の方を大募集されていますので、関心のある方は市防災防犯課へお問い合わせください。



佐藤まさたか

マニフェスト
大賞
受賞

1963年日野市生まれ・慶應義塾大学経済学部卒・中高社会科教員免許。大学卒業後、一貫して教育や保育の現場に身を置き、2003年に東村山市議初当選。政党や特定の団体の支援を受けない超党派無所属市議として6期目。NPO法人多摩住民自治研究所副理事長/ローカル・マニフェスト推進連盟/市民と議員の条例づくり交流会議等の運営委員/日本シティズンシップ教育フォーラム/子どもの貧困対策センター「あすのぼ」/自治体学会等の会員/全国の優れた政策実践に贈られる「マニフェスト大賞」で最優秀賞1回、優秀賞2回受賞。

声を聴き、足を運び、市政充実と議会改革に取り組んでいます

「佐藤まさたか市政レポート」は不定期の発行です。佐藤まさたか本人とボランティアの仲間が、駅頭(主に東村山駅西口)配布やポストリングを行っていますので、連続してお届けできなかったり、発行日から時間が経っている場合もございますご理解ください。バックナンバーはWebサイト(sato-masataka.net)でご覧いただけます。

市政や議会へのご意見、ご相談など、 どうぞお気軽に

FacebookやTwitter、ブログから発信中。
「佐藤まさたか」で検索してみてください!
メールアドレス:
gachapin@sato-masataka.net

東村山市廻田町2-21-13
TEL. 042-398-5265

